資料２

**諏訪東京理科大学公立化等検討有識者会議委員からいただいたご意見（概要）**

**魅力ある大学にするための方策について**

**①　産学官連携のインターンシップ、企業と連携したプロジェクト学習**

・諏訪東京理科大学を一定以上の成績で卒業すると、長野県内の企業に優先的に就職できるようなシステムを作ってはどうか。

・インターンシップを大学の単位にして、企業でも学生個人の能力を見極めてもらう取り組みをすることも大切。

・インターンシップの段階で、海外の事業所を経験することも非常に大事。

・卒業研究を企業と一緒に行うことで、卒業論文や修士論文で研究したことが、入社後すぐに実務に生かせると、企業として大変有難い。

・金融機関ではインターンシップ制度の受け入れは難しいが、地元の企業（特に製造業）へのインターンシップを増やすべきだ。

・大学では、まず教育と研究を充実させて欲しい。特に、学生は充実した卒業研究を通して大きく成長する。また、インターンシップと地域連携については、教員とは別に専任のコーディネーターの存在が不可欠。地域を知り大学を知る情熱のあるコーディネーターを採用すべき。大学を支援する機構をつくり、産業界または行政が担う案もあり得る。

・インターンシップは、学生にとって大変有効。必修単位として全員に課すか、選択とするかが検討項目になる。必修の場合は、インターンシップ先の確保と、受け入れ先による学生の評価が重要。インターンシップ先には、地元企業の他、地方自治体、JA の事業先等、幅広く考えたらいい。

**②　諏訪地域内の主な産学公連携拠点との連携策**

・第３回有識者会議（H28.8.3）の資料のとおりでよいが、大学側から連携拠点への呼び掛けが必要。

・地元密着型研究開発については、個別の場合は現行でも十分可能。専用のセンターを設ける場合は、プロジェクトを設け、期限付きの優秀な特任教授が担当になって進めると活動が有効になる。

・先端技術の発信においても、期限付きで始め、成果の見込みがついた段階で、恒常性を追求されたらどうか。

・サテライトキャンパスは、恒久的な建物整備だと資金的に大変であるが、各地域のニーズをくみ上げ、ネット経由の会議システムなどを活用して、行うことでも十分有効。この際、時期を限ってスクーリングで大学へも参加してもらうと、双方向性の確保につながる。

・多くの地方自治体で企画されている、「教養」をテーマにした大学講座というかたちで連携することもよい。

**③　諏訪東京理科大学での「工学と経営学の融合教育」に関して、企業経営者にとってさらに魅力的な教育内容とするため、今後の経営（マネジメント）分野の教育内容に求めること**

・これからの企業経営にとって大事なのは、「イノベーション」。マーケティングから新しい価値を生み出す企画力を養う教育、学生が積極的に自分で考えるためのモチベーション教育をお願いしたい。

・商品開発には「知的財産権」の学習は必要不可欠なので、是非取り入れていただき、知財教育の拠点となって、中小企業・高校生への普及支援を希望する。

・マネジメント分野の教育には、企業経営者による講義回数を増やすのも有効。

・工学と経営学の融合教育は、学部の学生には難しい可能性があるので、大学院において、社会人学生を含めた経営学コースで対応すればよい。仕事を持ちながら勉強する社会人にとっては、夜間および土曜日を活用するコースは有益。

・工学と経営学の融合教育は、工学部に一本化する学部改編の中で、大変よく配慮された措置であり、具体的な内容で検討いただきたいと考える。

・工学と経営学の融合教育の理念に共感し、「共通・マネジメント教育センター」の設置を歓迎し、その学びの内容に期待する。

## ④　その他（公立大学の教育研究に協力したいこと、地域貢献してほしいこと）

＜学生募集に関する意見＞

・魅力ある大学を作る中で、魅力ある学生を募集して増やしていくことが重要。そうなった時に「諏訪東京理科大学出身の人はすごい」と言える学生を、どれだけ増やせるかがポイントになる。

・これまで継続して行ってきた取り組みが、どれだけ成果があって、続けていく価値があるのか、それらをどのようにアピールしていけば学生募集につながるかを考えていかなければならない。

・地元の高校生が、どうしたら公立化した諏訪東京理科大学へ志願してくれるか一度聞いてみるべき。（例えば、駅から大学までの距離や、バス等の通学方法、クラブ活動の希望などについて）

・なぜ学生が来ないのかという部分を明確化し、その部分にポイントを絞っていかなければならない。

・魅力ある大学とは、誰にとって魅力的なのかを考えるべき。中高生、親、学生、地域住民、企業と多くの方にとって魅力ある大学が理想であるが、誰をメインに考えるかをもっと明確化するべき。

・公立化することで、学費が安くなり、志願者が増えるのは容易に予測できるが、これは一時的なことだと思う。今こそ公立化以外のメリットを打ち出し、志願者を増やす努力があってもいい。

・公立大学になることで、入学してくる学生のレベルが上がり、就職先のレベルが上がるという好循環となる策を何とか見つけていくことが必要。

＜新しい学問分野等への展開に関する意見＞

・医療ヘルスケア分野は今後期待される分野であり、諏訪圏域には医療機関が多いので、「工学と経営学の融合教育」でスタートした後、医療系エンジニアを育成する分野を教育内容に含めていただきたい。

・新製品開発には、「デザイン」も必要になるので、美術関係の学校とも連携をとっていくなど、特色のある大学経営をお願いしたい。

・技術革新が飛躍的な現代においては、電気機械的な部分だけでなく材料問題にも強い、そういった複合的な学生を養成していくべき。

・将来的には、地元の企業が欲している人材を育成するための学部をつくってほしい。（専門学校の吸収を含む。）

**＜先進農業エネルギー理工学研究部門に関する意見＞**

・「先進農業エネルギー理工学研究部門」が始動したが、「農業女子」＝女子学生の増加につながることが期待できる。

・「先進農業エネルギー理工学研究部門」が設けられたが、諏訪地域の特色として農業があるので、魅力ある大学づくりに繋がっていくと思う。今後もこういった取り組みを積極的に全国にＰＲしていくことが大事。

**＜その他の要望・意見＞**

・単科大学になることについては、ものすごく魅力を出せる可能性がある。

・開学当初は、新公立大学の経営を安定させ、財務の力をつけることが先決。

・就職に強い大学というイメージも必要。学生の就職活動への援助と、インターンシップを含めた、地元企業との連携が重要。

・大学と企業との共同研究は積極的に推進されたいが、これまでにうまくいかない点があったとすれば改善すべき。共同研究の推進が研究成果に繋がるとともに、参画する学生には非常に高い教育効果があると思う。

・大学が有する各種加工設備、検査機器、実験装置等とその技術を、無償・有償を問わず様々な機会を設け、大学自らが積極的に諏訪圏域および県内の零細・中小企業に公開し、産学連携をさらに広げる努力を希望する。

・地域の特性を知る講座を充実させることは、学生にとって意義深いはず。自然環境に恵まれた諏訪地域での体験型学習プログラムなどは、有意義だと思う。